

2018年4月17日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 486

大学教員の人事・評価・処遇施策の新展開3

～ 評価結果の活用方策／制度の丁寧な運用と見直し／最前線と実際 ～

4月24日〈火〉開催

ご参画・ご派遣のお願い

ユニバーサル化とグローバル化、そしてAIイノベーションの進展の中で、大学・短期大学におかれては、多様な学生層と新たな教育研究ニーズへの対応に鋭意、精励のことと拝します。教育・学術の質保証の最大のカギは、“教員の個人力”と“ファカルティの組織力”を支える「教員人事の活性化」といえます。各大学等において、教員の要件と職務を明示化するとともに、特に採用時における「契約事項」の明確化、そして、評価・処遇システムの創意工夫と導入・革新が必須となっております。

小会では、下記の2冊の資料集を刊行し、学長・理事長などにメッセージして参りました。

□『教員評価制度の導入と大学の活性化』（2003年3月刊）

- ・論考 館昭／安岡高志／諸星裕／清水一彦
- ・事例 産能大／高知工科大／長崎大／岐阜女子大／弘前大

□『教員評価制度の運用と大学風土改革』（2008年7月刊）

- ・論考 絹川正吉／阿部和厚／安岡高志／比留間進／土橋信男
- ・事例 東京理科大／産業能率大／多摩大／中部大／星城大／近畿大／敦賀短大／岩手大／岐阜大／岡山大／国立大アンケート
- ・提言 KKJ キーパーソン調査と提言

<敬称略>

これらの論考や事例は、今も“温故知新”の源泉であり続けており、是非ともご賞味ください。

さて、本セミナーでは、国公立大学における教員・研究者の業績評価の全体状況及び3大学のホットな事例について、ご報告いただきます。

大学改革支援・学位授与機構の林氏からは、国・公・私立大学への2014年度調査結果をもとに、教員や研究者の業績評価についての現状分析や評価の課題について、ご講義を賜ります。

岐阜大学の森脇氏からは、毎年度の評価及び関門となる年齢を設定しその年齢に達した年度における評価の項目や手順、それらの評価をもとにした処遇への反映、さらにポイント制の導入と現状について、ご報告を賜ります。

秋田県立大学の小林氏からは、大学における教員評価制度の位置づけや法人化と同時にスタートした評価制度の導入経緯と運用、その後の制度の見直しと改訂について、ご報告を賜ります。

上智大学の須田氏からは、教員評価制度導入に向けた検討体制や導入に至った経緯、目的について、さらに評価制度の基本方針と評価の実際、今後の検討課題について、ご報告を賜ります。